

—消費意識の変化に対応する食料費—

○元佐賀大学教育 出石康子 佐賀大学教育 小西史子

目的 消費に対する意識の変化は、食料費中の市販食料品費・外食費等の割合にも、明らかな影響を与えはじめ、食料費の検討・設計においても、これへの配慮が必要とされるようになってきている。そこで今までの基礎的・必需的性格の食料費部分の試算とは別に、家事時間節約、ならびに味覚・気分の満足のための、ゆとり的・文化的性格の食料費部分の試算を工夫し、家族構成に見合う栄養確保を基礎におきつつも、生活意識等にも配慮した、総合的見地に立つ理論食料費試算を確立したいと考えた。

方法 まず食料費を、財とサービスの購入という視点で分類した。財には家庭で調理される食品を当て、サービスには市販調理品・外食を当てた。前者部分の試算にはこれまでの理論基礎食料費試算を適用することとし、今回は後者のサービス関連の食料費部分の試算の開発に重点をおくことにした。サービス部分の検討にあたっては、その変容と消費意識との対応を容易にするために、これを家事省力・省時間的費用と、ゆとり・心の充実的費用に二分した。さらに各区分別の世帯が実際に選択した品目と、前回報告の「市販倍率」・「外食倍率」をあわせて、各区分内の層別をはかった。その上で、各層の特色を検討し、それらをいかすような試算とした。

結果 食料費検討・設計の視点を栄養摂取・生活費の構造のみにとどめず、家事省力・生活の充実感にも視点を広げて、総合的視座に立つ理論食料費の設計を可能にした。ますます多様化し、心の充実へと価値感が移っていく現在の消費意識の潮流を考えると、この方法の一層の充実と改善を図りたいと考えている。